

会 議 の 要 旨

会議の名称	令和元年度第1回川越市地域包括支援センター等運営協議会
開催日時	令和元年7月2日(火) 14時00分 開会 ・ 15時45分 閉会
開催場所	川越市医師会館 4階講堂
会長氏名	齊藤正身会長
出席委員氏名	望月副会長、井岡委員、岡持委員、本間委員、岩田委員、田中委員、渡邊委員、入江委員、大友委員、原委員、岡野委員、夏目委員、師岡委員(14名)
欠席委員氏名	小川委員
事務局職員氏名	介護保険課 奥富参事、貫井副課長、円城副主幹 健康づくり支援課 嶋崎課長、長澤副主幹 地域包括ケア推進課 荻野課長、富田主幹、佐藤副主幹、小山主査、吉川主査
オブザーバー	川越市地域包括支援センターキングス・ガーデン 安原氏 〃 小仙波 渡邊氏 〃 連雀町 石井氏・仲氏(機能強化型) 〃 よしの 寄藤氏 〃 たかしな 原島氏 〃 みずほ 佐々木氏 〃 だいとう 赤沼氏 〃 かすみ 高梨氏 〃 みなみかぜ 高橋氏 (9包括10名)
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 諮 問 4 報 告 (1) 平成30年度第3回地域包括支援センター等運営協議会要旨について (2) 令和元年度地域包括支援センター別各種状況について (3) 平成30年度地域包括支援センター事業実績について (4) 地域包括支援センター事業実績について 5 議 事 (1) 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について 6 その他 7 閉 会

配布資料	<p>1 次第</p> <p>2 資料 1 平成 30 年度第 3 回地域包括支援センター等運営協議会会議要旨</p> <p>3 資料 2 平成 31 年度（令和元年度）地域包括支援センター別各種状況について</p> <p>4 資料 3 平成 30 年度地域包括支援センター事業実績について</p> <p>5 資料 4 平成 30 年度機能強化型地域包括支援センター事業実績について</p> <p>6 資料 5 地域包括支援センター別平成 30 年度総合評価・課題 令和元年度の目標について</p> <p>7 資料 6 地域包括支援センター事業評価について</p> <p>当日配布資料</p> <p>（参考資料）地域包括支援センターの事業評価について</p> <p>（参考資料）地域包括支援センターの効果的な事業評価と取組改善に関する研究事業 報告書</p> <p>「第 V 部 評価指標の活用方法」抜粋版</p> <p>8 資料 7 予防給付ケアプラン・介護予防ケアマネジメント委託居宅介護支援事業所の承認について（平成 30 年度・令和元年度 新規）</p>
------	---

議 事 の 経 過

1 開会

2 会長あいさつ

3 諮問

4 報告

・傍聴人の確認 〈傍聴人なし〉

(1) 平成30年度第3回地域包括支援センター運営等協議会会議要旨について

【資料1】を基に事務局より報告・説明する。

・質疑・応答なし

(2) 令和元年度地域包括支援センター別各種状況について

【資料2】を基に事務局より報告・説明する。

意見・質疑等

〈委員〉6ページ。要支援者数が減少している地域や増加している地域の違いは何か。また、資料3の19ページのスライド37に関連させて考えると地域別の対応の仕方がわかるのではないか。

〈包括〉地域住民にいもっこ体操や自主グループへの参加勧奨している。ここ3年くらい受け入れが良くなっている印象を受けている。

〈会長〉19ページのスライド37については、要支援の認定が初回か2回目かで改善及び悪化の意味合いが違う。そういう視点で深くみていく必要がある。

(3) 平成30年度地域包括支援センター事業実績について

【資料3】を基に事務局より報告・説明する。

意見・質疑等

〈委員〉13ページのスライド26 認知症家族介護教室の地域包括支援センター小仙波の開催の経緯などについて、教えて頂きたい。

〈包括〉他の地区より1割程、認知症の相談が多い。地域の要望により、認知症家族介護教室の開催に至った。家族の交流会の立ち上げには至っていない。

〈委員〉家族としては、発散できる場所があればと思う。だいたいは、認知症家族の会「はなまる会」を、連雀町は、家族交流会を隔月で開催している。地域の実情にあった取組をもっと展開していくことが大切。

〈会長〉「はなまる会」と認知症の人と家族の会との関係はどのようになっているのか。

〈委員〉認知症の人と家族の会とは関係はない。参加者達が自主的に地域の実情にあった活動をする会として活動を始めた。

〈会長〉一緒に取り組まなくてはならないのではなく、それぞれの活動が情報共有されると良いと思われる。

〈委員〉認知症の人と家族の会は、年2回（4月、10月）、川越市近隣で集まっている。

参加者から、困っていることを伺い、解決方法など一緒に考えている。

会員については、介護を経験した方や今、介護をしている方で、「集いは、知恵の宝庫」だと皆で言っている。

〈委員〉8 ページ スライド5。担当圏域ケア会議で地域課題の掘り起こし後、課題解決に向けどのような取組を行っているか。また、第2層生活支援コーディネーターにつなげているのか。連携方法は、ある程度決まっているとよい。

〈事務局〉今回、資料として配付していないが、実態について地域包括支援センターに照会を行った。担当圏域ケア会議の開催方法は、地域包括支援センターによって異なっており、地域会議を活用している地域や、地域包括支援センターが関係機関を集め担当圏域ケア会議を開催している地域がある。認知症への理解が課題となれば、認知症サポーター養成講座を開催するなどの取組を行っている。第2層の生活支援コーディネーターも出席している。今後は、第2層の生活支援コーディネーターと地域包括支援センターとの連携をより深めていく必要があると考えている。

〈委員〉7月1日から、第2層の生活支援コーディネーターが2名増やし、8名とした。まだまだ、課題は多いが、第2層の協議体が14圏域中12箇所で立ち上がった。地域包括支援センターとの連携は、課題であり今後も連携を深めていけるよう取り組んでいきたい。

〈会長〉生活支援コーディネーターと地域包括支援センターの連携について、他市の状況はどうか。

〈委員〉第2層は、地域包括支援センターが担っていることが多く、社会福祉協議会が担っている市は少ないが、連携については課題となっている。

〈会長〉地域ケア推進会議の開催の予定はあるのか。

〈事務局〉今年度中に、取組の現状報告になると思うが、開催することを考えている。

〈会長〉各地域であがっている課題を検討して頂きたい。今ある課題を解決していくのが大切。

【資料4】を基に事務局より報告する。

意見・質疑等

〈委員〉今年度は、毎月1回、機能強化型地域包括支援センター、地域リハビリテーション・ケアサポートセンター及び川越市地域包括ケア推進課で、打ち合わせを行っている。今年度は、より連携した取組が行えるよう期待している。

〈会長〉この事業は、相談件数の増加等で評価できるものではない。今後、機能強化型地域包括支援センターをどのようにしていくのか、他の場所などでも十分に検討して頂きたい。

【資料5】を基に事務局より報告・説明する。

意見・質疑等

〈委員〉平成30年度の総合評価は、各地域包括支援センターで記載内容や視点が異なっている。市では、記載内容を確認し、ある程度、記載する内容を示していないのか。

〈事務局〉評価等について、記載する内容は示していない。

〈委員〉前回会議で、評価のための評価となっているとの話があったが、昨年度の自己評価の結果などとの整合性はあるのか。それとは、異なった記載内容や課題が見受けられる。

〈事務局〉ご指摘のとおり。事業評価から明らかになった課題の解決に向け、目標を設定しなくてはならない。

〈会長〉国が標準的な指標で評価を示している。それに、市として評価したい項目を付随させていくことを考えてはどうか。次年度に向け、発展させていくことを検討していかななくてはならない。

(4) 地域包括支援センター事業評価について

【資料6】【参考資料】を基に事務局より説明する。

意見・質疑等

〈会長〉12月に国以外の市独自評価を実施する意味はあるのか。

〈事務局〉今年度の自己評価として実施を考えている。

〈会長〉地域包括支援センターの自己評価を市が必ずしも把握する必要があるのか。また、実際に実施する地域包括支援センターから意見はどうか。

〈包括〉国の評価は、法令等の基準が主であり、遵守しているか把握することが目的と思われる。市の独自評価は、自由記述ができる方式が多く、活動の振り返りができるため実施する意味はある。12月は、法人としても来年度の事業計画を考える時期でもあり、いいタイミングである。

〈包括〉国と市の評価指標は異なっており、市の評価は具体的な記載ができる。しかしながら、12月であると、年度末・年度初めに、報告書及び次年度の計画書を提出するため、同じ評価や作業をしている。業務の簡素化もしていけたらと思う。

〈包括〉評価を年に3回、行っているイメージがある。12月の評価は実施しなくてもいいと思われる。

〈包括〉職員の自己評価については、半年に1回、地域包括支援センター内で行っている。各地域包括支援センターの評価につながるようになるといい。

〈会長〉業務負担の問題は考えていかななくてはならない。市と地域包括支援センターで検討して頂きたい。また、各地域包括支援センターによって、評価の取り扱いが違っているのも問題がでると思う。

〈副会長〉コンプライアンスを意識すると、このような会議の内容になってしまう。地域包括支援センター職員の活動の先には市民がいる。そのため、評価は2つの視

点で検討してはどうか。1つは、見える化をつくるためのコンプライアンスを遵守する点。2つ目は、地域包括支援センターのマンパワーが有効に活用される方法を考える点。

〈委員〉参考資料の評価の留意点は効率よく整理されている。参考資料の13ページの記入方法のとおり、記入方法を市と地域包括支援センターとで申し合わせるすることになっている。ステップ4の桐生市を参考にし、市と地域包括支援センターで記入方法の差異を確認し、標準的な記入方法をはっきりさせていくことが大切。

〈会長〉評価の目的は、参考資料の2ページの下段の記載されている内容（市町村が個々のセンターの業務の実施状況を把握し、地域包括支援センター運営協議会等での検討を通じて、適切な人員体制の確保や業務の重点化・効率化を進められるようにすることが、センター評価を行う目的）につきる。評価をどうするか議論は終わりにし、評価結果をもとに地域包括支援センターの運営をどのようにしていくかの議論ができるようにしていかななくてはならない。

4 議事

(1) 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について

【資料7】を基に事務局より説明する。

承認される。

5 その他

〈事務局〉次回会議は、11月頃に開催予定。

6 閉会

※地域包括支援センターを〈包括〉として記載しています。